えんちょう通信

No.７１
令和４年６月６日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤 一男

日々の遊びや生活の中にこそ「学び」があります

６月２日（木)、さわやかな朝です。登園してきた子どもたちが、野菜に水をあげようと園庭に駆け出してきました。

年少組の子どもたちが喜んで水やりをしていると、そこへ担任の先生も出てきて一緒に水やりをしています。

「これはピーマン」「これは枝豆」と４歳児の子どもたちが、ちゃんと野菜の名前を憶えています。私が「黄色い花が咲いているのは何？」ときくと、「かぼちゃかな・・・。」と答えてくれました。

すると、担任の先生が「この花は雌花で、こっちが雄花。どっちもないと実がならないんだよ。」と子どもたちに教えてあげました。「めばな」「おばな」と聞いても、子どもたちはたぶん何のことかわからないだろうと思います。ですが子どもたちは、大人が話す言葉を聞いて、一生懸命にその意味を自分で考え、理解しようとします。これから毎日、子どもたちはカボチャに水をあげたり、大きくなったか見にいったりするうちに、花の下に丸いものがついているのが雌花だということを理解していくかもしれません。赤ちゃんや小さい子どもは言葉の意味を自分で考えて推測して、言葉の意味を自分で発見していくと言われています。「自ら学んでいく」のです。

同じ日、年長組の子どもたちは遊戯室で時計作りをしていました。「コチコチカッチン　おとけいさん　コチコチカッチン　うごいてる・・・」とみんなで歌って、とても楽しそうです。担任の先生に「長い針に、この割ピンをさします。次に短い針をさして、とりつけます。」と教えられています。そしてそれを前に作ってあった文字盤に取り付けました。短針と長針ができると、子どもたちはすぐに時計で遊び始めました。短い針と長い針を動かして「私は、夜の１０時。」「キンコンカンコン、僕は昼の１２時」。針を３時に合わせて、「おやつの時間！」と、とても楽しそうです。

ある子が私に近づいて来て、「これ何時かわかる？」ときくので、「短い針が３で、長い針が１２だから、３時だね。」と答えると、「当たり！」。「じゃ、これは？」、「これは？」と次々に問題を出してきます。そのたびに「５時だね。」、「それは１１時１５分。」などと針を見て答えてあげました。何とかして、時計の読み方や決まりを自分で見つけ出そうと一生懸命なのかもしれません。こういうことを繰り返して子どもは自分で時計の読み方を理解していくのでしょう。もちろん先生やお母さん、お父さんに教えられて覚える子もいますが、子どもはワクワクしながら、何とかして自分の力で解決しようとします。

幼稚園は、楽しそうに遊んでいるだけと思われがちですが、そうではありません。子どもたちは、夢中になって遊んだり活動したりする中で、自分の力で言葉の意味を理解したり、数や時間の決まりなどを身に付けたりしていきます。

子どもたちは、みんな「自ら学ぶ力」をもっています。